

京都府京都市方言の原因・理由表現

船木 礼子

(1)はじめに

京都市方言の原因・理由表現について、「原因・理由表現 共通調査項目」に掲載した項目を中心に報告する。

現在の京都市方言では原因・理由の表現に、伝統的な関西の形式として知られる「サカイニ」や「サカイ」だけでなく、準体助詞と「デ」から構成されている「ンデ」、標準語と同形の「カラ」、そして並列の表現形式から発展したと考えられる「シ」が用いられている。これらの形式は標準語の「から」がもつほぼ全ての用法に用いられる。

(2)調査の概要

ここでは、京都市内生え抜きの40代女性話者から得た情報を報告する。

話者情報

女性, 1961年生まれ, 美容師

京都市北区紫野出身(西陣), 現在, 左京区内に住んでいるが移住後も継続して紫野の実家で仕事をしている

調査の概要は以下の通りである。いずれも、筆者が調査している。

調査日: 2006年11月, 2008年2月に実施

調査場所: 話者宅(2006年11月), 喫茶店(2008年2月)

調査方法: 面接法で, 主に調査票の標準語例文の方言翻訳とその読み上げ

面接調査は以下の手順で進めている。まず調査者が調査票を見せながら口頭で説明した標準語調査文について、話者が方言訳を口頭で回答し、これを調査者が筆記した。場合によっては、候補語形を調査者が提示することもあった。次に調査者が筆記した方言訳を見せながら、京都市で使用する可能性のある他の形式が使えるかを話者に尋ね、最後に、使用すると回答された方言訳の例文を話者に読み上げてもらい、音声を録音した。

(3)文字化について

- ・報告する京都市方言の例文は、上記(2)で得た録音を調査者が書き起こしたものである。話者の発音は概ね仮名で表記可能であり、ここではカタカナを用いるが、部分的に仮名で表しにくい場合は注記を施す。
- ・「×」は話者が使用しない、あるいは不自然だと判断した文(形式)であることを表す。しかし、京都市方言は原因・理由表現の形式が多く、「カラ」や「サカイ」など使うことはわかっても逐一確認をしなかった場合もある。ここでは、確実に使用・不使用についての確認がとれ、読み上げた音声を録音できたものだけを報告する。
- ・複数回答は、回答順に{X/Y}のように示す(例:「フッタ {サカイニ/シ}」)。ただし、話者が原因・理由表現の形式だけでなく、文の中の他の要素も異なる表現にして発話(読み上げ)した場合は、[1][2]等の体裁で報告している。

1 「から」と「ので」の用法

1-1 事態の原因(接続調査を兼ねる)

- 1-1-1 マイニチ アメガ フルサカイ センタクモンガ カワカヘン。
 1-1-2 マイニチ アメヤカラ センタクモンガ カワカヘン。
 1-1-3 テンキガ エーサカイ センタクモンガ ヨー カワクエ。
 1-1-4[1] コノ ヘヤワ シズカヤシ シゴトニ シュウチュウデキルエ。
 [2] コノ ヘヤワ シズカヤサカイ シゴトニ シュウチュウデキル {エ/ワ}。
 1-1-5 キノーノ ヨル ユキガ フッタ {サカイニ/シ/サカイ} ミチガ ビチヨビチヨニ
 ナッテルエ。
 1-1-6 コドモ {ヤシ/ヤサカイニ/ヤサカイ/×ナンデ} ワカラヘンカッタ。

1-2 行為の理由(後件のモダリティ制限の調査を兼ねる)

- 1-2-1 タイチョーガ ワルイサカイニ シゴト ヤスマセテモロタ。
 注：話者は「サカイニ」の場合は主節末が「モータ」や「モロタ」のように過去形になると内省している。
 1-2-2 タイチョー ワルイシ キョーワ シゴト ヤスモ。
 1-2-3 ヨミチワ クライ {シ/サカイニ} イッショニ カエロカー。
 1-2-4 アカンボガ ネットル {サカイニ/シ} シズカニシテ。
 1-2-5 アカンボガ ネットル {シ/サカイニ} シズカニシテクレヘンカ。
 1-2-6 アメガ フル {シー/サカイニ/サカイ} カサ モッテイキヤ。

1-3 判断の根拠

- 1-3-1a[1] ホシガ デテルシ アシタモ イー テンキニ ナルヤロ。
 [2] ホシガ デテルサカイニ イー テンキニ ナルエ。
 1-3-1b A : アシタモ イー テンキニ ナルヤロ。
 B : ナンデ。
 A : ホシガ デテル {サカイニ/シ}。
 1-3-2[1] ヒダリテニ ユビワオ ハメテハルシ ケッコシテハルエ。
 [2] ヒダリテニ ユビワオ ハメテハルサカイニ ケッコシテハンノチガウカ。
 1-3-3 セキガ デルシー ネットッポイ {シー/サカイニ} カゼオ ヒータンカモシレヘン。
 注：この場合の「シ」と「サカイニ」は意味が違くとコメントしている。
 1-3-4[1] サッキ シンブンハイタツノ オトガ シタシー イマ ゴジオ スギタ トコラヘ
 ント チガウカ。
 [2] サッキ シンブンハイタツノ オトガ シタサカイニ イマ ゴジオ スギタ トコ
 ロヤデ。

1-4 発言・態度の根拠

- 1-4-1[1] アブナイサカイ コノ カワデ アソンダラ アカン。
 [2] アブナイシ コノ カワデ アソバントキ。
 1-4-2[1] カゼ ヒータラ アカンシ タクサン キテ デカケヤ。
 [2] カゼ ヒータラ アカン {シ/サカイニ/サカイ} アッタカイ カッコ シテイキ
 ヤ。
 1-4-3[1] キョーノ シゴトワ ゼンブ オワッタシ モー カエロカ。

[2] キョーノ ブンワ オワッタ {シ/サカイニ/サカイ} モー カエロカ。

1-5 理由を表さない用法

- 1-5-1[1] スグ モドッテクルサカイニ ココデ マッテテ {ナ/ヤ}。
 [2] スグ モドッテクルシ ココデ マッテテナ。
 [3] スグ モドッテクルサカイニ マッテヨシ。
 [4] スグ カエッテクルシ ココデ マッテヨシ。
 [5] スグ カエッテクルサカイニ ココデ マッテテナ。
- 1-5-2[1] イッカイデ エーシ ピラミッドニ ノボッテミタイ。
 [2] イッカイデ エーサカイニ ピラミッドニ ノボッテミタイワ。
- 1-5-3[1] オネガイヤシ オカネ カシテホシーンヤケド。
 [2] オネガイヤサカイ オカネ カシテ。
- 1-5-4 タクシー ヨブ {シ/サカイニ} ハヨ ビョーイン イキヤ。
- 1-5-5[1] ツクエノ ウエニ オイテアル {シ/サカイニ} ワタシノ サイフ モッテキテクレヘンカ。
 [2] ツクエノ ウエニ オイテアルシ ワタシノ サイフ モッテキテ。
 [3] サイフガ ツクエノ ウエニ オイテアル{シ/サカイニ} モッテキテクレヘンカ。

1-6 原因・理由節の述語用法 (XはYからだ)

- 1-6-1 A : アー シンド。
 B : アンナ {ギョーサン/イッパイ} ノムシヤデ。
- 1-6-2 A : キョーワ デパート コンデルナー。
 B : ニチョービヤシヤ {ヤデ/ヤロナー}。
- 1-6-3[1] A : サイキン タローノ キゲンガ ワルインヤ。
 B : アンタガ ジローノ コトバッカシ ホメルサカイトチガウカ。
 [2] A : サイキン タローノ キゲンガ ワルインヤ。
 B : アンタガ ジローノ コトバッカシ ホメルシヤロ。
- 注:「ワルインヤ」の「ンヤ」は「ニヤ」に近く聞こえる。以下同じ。
- 1-6-4 A : サイキン タローノ キゲンガ ワルインヤ。
 B : ワタシガ ジローノ コトバッカリ ホメル {シ/サカイニ} カナー。
- 1-6-5 A : サイキン タローノ キゲンガ ワルインヤ。
 B : ジローバッカリ ホメラレテル {サカイ/シ/カラ} カモシレンナー。
- 1-6-6 A : ヒッコシノ アト パソコンノ チョーシ ワルイニヤ。
 B : ソレワナー ハコブトキニ オトシタ {シ/サカイニ} ヤデ。

1-7 従属節内のモダリティ表現

1-7-1 伝聞・推定表現など

- 1-7-1-1 コンヤワ アメガ フルソーヤ {シ/サカイニ} ハヨ カエロ。
 1-7-1-2 コンヤワ アメガ フルラシー {シ/サカイニ} ハヨ カエロ。
 1-7-1-3 コンヤワ アメガ フリソーヤ {シ/サカイニ} ハヨ カエロ。
 1-7-1-4[1] ドーモ ネットガ アルミタイヤシ ハヨ カエルコトニ シタワ。
 [2] ドーモ ネットガ アルミタイヤサカイニ ハヨ カエロカナ。

- 1-7-1-5[1] アメガ フルカモシレヘンシ カサ モッテキタワ。
 [2] アメガ フルカモシレヘンサカイニ カサ モッテキタシ。

1-7-2 推量表現

- 1-7-2-1 アメガ フルヤロ {シ／×サカイニ／×サカイ} カサ モッテイキヤ。

注：「サカイニ」「サカイ」は不自然と回答。

- 1-7-2-2[1] ヤマワ イッパイ ユキガ フルヤロ {シ／×サカイニ／×サカイ} ナダレガ シンパイナンヤ。

- [2] ヤマワ ユキガ オーイーヤロ {シ／×サカイニ／×サカイ} ナダレガ シンパイナンヤ。

注：「サカイニ」「サカイ」は不自然と回答。

- 1-7-2-3 コンナン タイシタ アメニワ ナラヘンヤロ {シ／×サカイニ／×サカイ} カサワ モッテイカヘン。

注：「サカイニ」「サカイ」は不自然と回答。ただし不自然ながらも「コンナン タイシタ アメニワ ナラヘンヤロサカイニ カサ モッテイカントキヤ」を読み上げてくれている。

- 1-7-2-4 ソトワ サムイヤロ {シ／サカイニ} ギョーサン キテイコ。

注：1-7-2-4 と 1-7-2-5 については「サカイニ」は使わないかと誘導して確認したところ、「～ヤロサカイニ」も使用すると回答。2008年2月に再度、不自然ではないかと確認したが、「～ヤロサカイニ」は自然だとの回答を得た。ただし、筆者はまだ40代以下の世代の自然談話の中で「～ヤロサカイニ」の用例を聞いたことがない。

- 1-7-2-5 コノブンヤッタラ アメヤロ {シ／サカイニ} エンソクワ チューシヤデ。

注：1-7-2-4に同じ。

1-7-3 丁寧表現

- 1-7-3-1[1] ハナシガ アリマスノデ ココニ キテクダサイマセンカ。

- [2] チョット ハナシガ アリマスシ キテモラエマセンカ。

- 1-7-3-2[1] アブナイシー カケコミジョーシャワ ヤメテホシーンデスー。

- [2] アブナイサカイニ カケコミジョーシャワ ヤメテクダサイ。

- 1-7-3-3[1] リョーシンノ グアイガ ワルイノデー キョーワ スコシ ハヤメニ カエラシテ モロテモ ヨロシードスカ。

- [2] コドモノ チョーシガ ワルイノデー キョーワ ハヤメニ カエラセテ イタダケマセンカ。

注：聞き手との親疎関係や場面設定が大きく関わる。「ワルイシ」「ワルイサカイニ」は「ちょっと親しい目上の人」に対してなら使用できるが、公的な場面（PTAの集まりなど）で畏まっている場面ならば「ノデ」を使用する。

1-8 文末用法

1-8-1 倒置

- 1-8-1-1[1] チョット ココデ マッテテナ。 スグ カエッテクルサカイニ。

- [2] チョット ココデ マッテテナ。 スグ カエッテクル {サカイ／シ} ナ。

- 1-8-1-2 チョット ゴセンエン カシテクレヘンカ。 ゲツマツニ カエス {サカイニ／シ}。

- 1-8-1-3 エキマデ ムカエニ キテ クレヘンカ。 シチジニ ツク {シ／サカイニ／サカイ}。

注:「サカイ」よりも「サカイニ」のほうがソフトな感じがして言いやすいとコメントしている。

1-8-2 終助詞的用法

1-8-2-1 アトデ モー イツカイ デンワスル {シ/サカイニ}。

1-8-2-2 チョット デカケテクルシ プリンガ レーゾーコニ ハイッテル {シ/サカイ} ナ。

1-8-2-3 アンタノ コト ゼッタイ ワスレヘン {シ/サカイニ} ナ。

1-8-2-4[1] オトーサンニ ユータルシナ。

[2] オトーサンニ ユー {シ/サカイ/サカイニ} ナ。

1-8-2-5[1] ゴジマデ エキマエノ キッサテンニ イル {シ/サカイニ}。

[2] ゴジマデ エキマエノ キッサテンニ イルサカイナ。

注:「サカイ」よりも「サカイニ」のほうがソフトな感じがして言いやすいとコメントしている。

1-8-2-6[1] チョット スーパーマデ カイモンニ イッテクル {シ/サカイニ}。

[2] チョット スーパーマデ カイモンニ イッテクル {シ/サカイ} ナ。

注:「サカイニ」は、そこで文を切ることもできるが、後件にあたる内容を続ける方が自然に感じるとコメントしている。

1-8-2-7[1] ヒミツオ バラシタラ タダデワ オカヘンデ。

[2] ヒミツオ バラシタラ タダジャ オカヘンシナ。

[3] ヒミツオ バラシタラ タダジャ オカヘンシ。

[4] ヒミツオ バラシタラ タダデワ オカヘンサカイニナ。

[5] ヒミツオ バラシタラ タダデ オカヘンサカイ。

2 「のだから」の用法

2-1 「から(ので)」との相違

2-1-1a_1 ジカンガ ナイ {シ/サカイニ} イソイダ。

2-1-1a_2 ジカンガ ナイ {×ンヤシ/×ンヤサカイニ} イソイダ。

2-1-1b_1 ジカンガ ナイ {シ/サカイ} イソゴ。

2-1-1b_2 ジカンガ ナインヤサカイニ イソゴ。

注:「イソゴ」は独り言ではなく、誰かに聞かせるために発話されるものとして文脈を理解しているようなので、意志といっても宣言的・勧誘的である。この場合、恐らく「ジカンガ ナインヤシ イソゴ」も使用できると思われる。

2-1-1c_1[1] ジカンガ ナイ {シ/サカイニ} イソギヨシ。

[2] ジカンガ ナイサカイニ イソギヤ。

2-1-1c_2 ジカンガ ナイ {ンヤシ/ンヤサカイ} イソギヤ。

注:誘導すると「ナインヤサカイ」「ナインヤシ」も使うと回答。ただし「ナインヤシ」のほうが多いと回答。

2-1-2_1[1] テンキガ エーシ サンポニ イッタ。

[2] テンキガ イーサカイニ サンポニ イッタンヤ。

2-1-2_2 テンキガ エー {×ンヤシ/×ンヤサカイニ} サンポニ イッタ。

注:主節末が事実の叙述「散歩に行った」であるときは「のだから」相当にならない。主節末が命令の場合には「キョーワ テンキガ イーンヤシ サンポニ イッテキ」,「キョーワ テンキガ エーンヤサカイニ サンポニ イッテキ」のように「のだから」相当が使われる。

2-1-3_1 マイニチ アメガ フルサカイ センタクモンガ カワカヘン。

2-1-3_2 ×アメガ フル {ンヤシ/ンヤサカイ} センタクモンガ カワカヘン。

注：後件に「～ニヤンカ」もしくは「～ネヤンカ」(「ののではないか」相当)などを付けた「アメガ フルンヤシ センタクモンガ カワカヘンニヤンカ。」を使用すると回答。

2-1-4_1 キノーノ ヨル ユキガ フッタ {サカイニ/シ/サカイ} ミチガ ビチヨビチヨニ ナッテルエ。

2-1-4_2 ×キノーノ ヨル ユキガ フッタ {ンヤシ/ンヤサカイニ} ミチガ ビチヨビチヨニ ナッテルエ。

注：後件に「～ニヤンカ」もしくは「～ネヤンカ」(「ののではないか」相当)などを付けると「シ」「サカイニ」も使用できると回答。

2-2 意味・用法(接続調査を兼ねる)

2-2-1 確かな事実とその当然の結論

2-2-1-1_1 モノスゴ ガンバツタシ コンドワ ウマイコト イクハズエー。

2-2-1-1_2[1] コンドワ モノスゴ ガンバツタンヤシ ウマイコト イクエー。

[2] コンドワ モノスゴ ガンバツタンヤサカイニ ウマイコト イクハズエー。

2-2-1-2_1[1] ダイジナ ハナシオ シテルシ コドモワ アッチ イットキ。

[2] ダイジナ ハナシオ シテル {シ/サカイニ} コドモワ アッチ イットキヨシ。

2-2-1-2_2[1] ダイジナ ハナシオ シテルニヤサカイニ コドモワ アッチ イットキ。

[2] ダイジナ ハナシオ シテルンヤシ アッチ イットキ。

2-2-1-3_1 ×コッチワ シンケンンヤシ カラカワントイテ。

2-2-1-3_2[1] コッチワ シンケンナンヤシ カラカワントイテ。

[2] コッチワ シンケンナンヤサカイニ カラカワントイテヤ。

2-2-2 聞き手に関する情報—行動要求・認識要求

2-2-2-1_1 ×マダ ワカイシ イッカイヤ ニカイン シツパイデ クヨクヨ シントキヤ。

2-2-2-1_2 マダ ワカイ {ンヤシ/ンヤサカイニ} イッカイヤ ニカイン シツパイデ クヨクヨ シントキヤ。

2-2-2-2_1[1] ジュケンセーヤシ モーチョット チャント ベンキョー シーヤ。

[2] ジュケンセーヤサカイニ ベンキョー シーヤ。

[3] ジュケンセーヤサカイニ ベンキョー シナ アカンエ。

[4] ジュケンセーヤシ ベンキョー シーヤ。

2-2-2-2_2[1] ジュケンセーナンヤシ モット シンケンニ ベンキョー シ。

[2] ジュケンセーナンヤシ ベンキョー シナ アカンエ。

[3] ジュケンセー {ンヤシ/ンヤサカイニ} ベンキョー シーヤ。

2-2-2-3_1 ×セツカク リューガク スルサカイ チャント ベンキョー シテキーヤ。

2-2-2-3_2 セツカク リューガク スルンヤサカイ チャント ベンキョー シテキーヤ。

2-2-3 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

2-2-3-1 ジカンワ マダ ジューブン アルンヤサカイニ ユックリ シテイッテナ。

2-2-3-2 チャンスワ マダマダ アル {ニヤシ/ニヤサカイニ} ゲンキ ダシヤ。

2-2-3-3[1] モー スグ タンインデキルンヤシ アト チョットノ シンボーヤンカ。

[2] モー スグ タンインデキルニヤサカイニ アト チョットノ シンボーヤンカ。

2-2-4 倒置

2-2-4-1[1] カラダニ キー ツケヤ。 モー ワコーナインヤサカイニナ。

[2] カラダニ キー ツケヤ。 モー ワコーナインヤシ。

2-2-4-2[1] ジブンデ キメヤ。 モー コドモト チガウニヤデ。

[2] ジブンデ キメヤ。 モー コドモト チガウ {ニヤサカイニ/ニヤシ}。

2-2-4-3 ソラ シンパイスルデ。 オヤ {ナンヤシ/ナンヤサカイニ/ナンヤサカイ}。

2-2-5 終助詞的用法

2-2-5-1 アタシ カレト ゼツタイ ケッコンスル {ンヤシ/ンヤサカイ/ンヤサカイニ}。

2-2-5-2[1] コッチガ アマイ カオ スルト スグ チョーシ ノラハル {シ/ンヤシ}。

[2] コッチガ アマイ カオ スルト チョーシ ノラハル {サカイニ/ンヤサカイニ}。

2-2-5-3[1] アノ オトコワ ホンーマニ サケグセガ ワルインヤシ。

[2] アノ オトコワ ホンマニ サケグセガ ワルインヤデ。

[3] アノ オトコワ ホンマニ サケグセガ ワルイ {ンヤサカイニ/ンヤサカイ}。

注:「ワルインヤ」の「ンヤ」は「ニヤ」に近く聞こえる。

3 接続詞「だから」の用法

3-1 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件が同一の話し手によるもの

3-1-1[1] アメガ フルヤロ。 ソヤシ センタクモンガ カワカヘンネ。

[2] サイキン マイニチ アメガ フルヤロ。 ソヤサカイニ センタクモンガ カワカヘンネ。

3-1-2[1] モー イエ デル ジカンヤデ。 ハヨ オキヤ。

[2] モー イエオ デル ジカンヤデ。 ソヤシ ハヨ オキヤ。

注: [1]のように接続詞を入れないのが最も自然。入れるとすれば[2]の「ソヤシ」。

3-1-3[1] チョット ココデ マッテテ クレヘンカ。 スグ カエッテ クルシ。

[2] (忘れ物を) チョット トッテクルワ。 ココデ マッテテ クレヘンカ。

注: この文脈では, [1]のように依頼を先に述べるか, [2]のように接続詞を入れないのが自然。接続詞を入れるとすれば「ソヤシ」や「ソヤサカイニ」だが, この場合, 因果関係を説明することに重点がおかれて前の文の内容についてかなり言い訳しているように感じられるため, この文脈では使いにくいという。

3-2 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件の間に話者交替があるもの

3-2-1 相手の発話中の事態Pを受け、それから導かれる帰結Qを述べるもの

3-2-1-1 A: (調査省略: 最近は毎日雨が降るね。)

[1] B: ソーヤ。 ソヤシ センタクモンガ カワカヘンシ コマッテンネ。

[2] B: ソーヤ。 ソヤサカイニ センタクモンガ カワカヘンシ コマッテンネヤ。

3-2-1-2 A: キョーワ アメガ フルミタイヤナ。

[1] B: {ソヤシ/ホンデ} カサ モッテイキヤ。

[2] B: ソヤシ カサ モッテイキヨシヤ。

[3] B: ソヤシ カサ モッテイキナサイヤ。

[4] B: {ホンデ/ソヤシ} カサ モツテイットキヤ。

3-2-2 聞き手に結論を求めるもの

3-2-2-1_1 A: タイヘンヤ。 アメ フツテキタ。

B: ソヤシ ドーシタン。

3-2-2-1_2 A: タイヘンヤ。 アメ フツテキタ。

B: {ソヤシ/ホンデ/×ソヤサカイニ/×ソヤサカイ} ナンナン。

3-2-2-1_3 A: タイヘンヤ。 アメ フツテキタ。

B: {ホンデ/×ソヤシ/×ソヤサカイニ/×ソヤサカイ}。

3-2-3 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの

3-2-3-1[1] A: ジコデ デンシャガ オクレテルミタイヤデ。

B: {ホンデ/ソヤシ} カー。 ホンデ ミンナ キターラヘンニヤナー。

[2] A: ジコデ デンシャガ オクレテルミタイヤデ。

B: ホンマー。 {ホンデ/ソヤシ/ソヤサカイニ} ミンナ キターラヘンニヤナー。

注:「ホヤサカイニ」は「お年寄りのことば」とのこと。「キターラヘンニヤナー」=「きてはらへんのやなー」。京都市では、「きてはる」>「キタハル」のように、ハルに前接するテがタになることが多い。

ハルによる逆行同化か、五段動詞のハル接続形式(未然形)からの類推か。

3-2-3-2[1] ソヤシ モー レンキューニ イクノ イヤヤネン。

[2] ホンデ イクノ イヤヤネン。

[3] ソヤサカイニ モー レンキューニ イクノ イヤヤネン。

3-2-3-3[1] アレヤシ レンキューニ デカケンノ イヤヤネン。

[2] ホンデ レンキューニ デカケンノワ イヤナンヤ。

[3] {ソヤシー/ソヤサカイニ} レンキューニ デカケンノ イヤヤネン。

注:テレビを見ての発話なら「アレヤシ」よりも「ソヤシ」というように思うとのこと。その場にはいない人物(第三者)について陰口をいうときなどは「アレヤシナー」のようにア系も使う。

3-2-4 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの

3-2-4-1_1 {ソヤサカイニ/ソヤシ} ヤメトキ ユータンヤ。

注:子どもにではなく、夫など対等の人物に対して言う。

3-2-4-1_2[1] {ソヤシ/ソヤサカイニ/ホンデ} ユータヤロ。

[2] {ソヤシ/ソヤサカイニ} ヤメトキヤテ ユータヤロ。

注:子どもなど目下に対して言う。

3-2-4-1_3 ソヤシ ヤメトキテ ユータヤンカ。

3-2-4-2[1] ソヤシ シタラ アカンテ {ユータヤロ/ユータヤンカ}。

[2] ソヤサカイニ シタラ アカンテ {ユータヤロ/ユータヤンカ}。

[3] ソヤサカイ シタラ アカンテ ユータヤンカ。

3-3 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し

手の態度を表すもの

3-3-1 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

- 3-3-1-1_1 A: サッキ タノンダ シゴト チャント シトイテヤ。
 B: イマ チョット イソガシーテ デキヒンケド キョージュニー シトクシ。
 A: アシタマデニワ シトイテヤ。
 [1] B: ソヤシ キョー ヤルテ ユータヤロ。
 [2] B: ソヤシ キョージュニー ヤルテ ユーテルヤンカ。
 [3] B: {ソヤサカイ/ソヤサカイニ/ソヤシ/×ホンデ} キョージュニー ヤル
 ユーテルヤロ。
- 3-3-1-1_2 A: サッキ タノンダ シゴト チャント シトイテヤ。
 B: イマ チョット イソガシーテ デキヒンケド キョージュニー シトクシ。
 A: アシタマデニワ シトイテヤ。
 B: ソヤシ キョー {ヤルシ/ヤルテ}。
- 3-3-1-2_1 A: キョー ハナシタイ コトガ アッテ キタンヤケドー。
 B: ナニナニ。 ナンデモ キクエー。
 A: ムノッスゴ ダイジナ コトナンヤケド。
 [1] B: ハヨ シャベッテ。
 [2] B: ホンマー ハヨ シャベッテ。
 注: 接続詞は使わないのが自然。
- 3-3-1-2_2 A: キョー ハナシタイ コトガ アッテ キタンヤケドー。
 B: ナニナニ。 ナンデモ キクエー。
 A: ムノッスゴ ダイジナ コトナンヤケド。
 B: {ソヤシー/ソヤサカイニ} キクー ユーテルヤン。

3-3-2 発話行為間の因果関係がないもの

- 3-3-2-1 A: サッキ タノンダ シゴト シトイテクレター。
 B: エ ナンノコト。
 [1] A: サッキ タノンダヤロ。
 [2] A: ソヤシー サッキ タノンドイタヤロ。
 [3] A: ソヤサカイニ サッキカラ ナンカイモ ユーテマスデショー。
 [4] A: ソヤシ ナンカイモ ユーテルヤロ。
 注: Bが忘れていたことを一回やりとりした程度では、[1]のように接続詞を使わないのがもっとも自然。接続詞は、押し問答の末に、かなり怒って使う。使うときは相手に合わせて使い分ける。「ソヤシー」は夫や子どもに対して使用。「ソヤサカイニ」は舅・姑に対して使用すると回答しており、年齢もしくは丁寧さが使い分けに関わっていると思われる。
- 3-3-2-2 A: キョー チョード ウマイコト タナカサンニ オーテナー。
 B: ドノ タナカサン。
 [1] A: {ソヤシー/ソヤサカイニ} キノー ユーテタ サンチョーメノ タナカサンヤン。
 [2] A: ソヤサカイ キノー ユーテタ ホラ サンチョーメノ タナカサンヤン。